

Y19a 星空案内人(星のソムリエTM)資格認定制度の成果と課題

柴田晋平(山形大)、横山潤(山形大)、安藤 享平(郡山市ふれあい科学館)、井上 毅(西はりま天文台)、内田 治(NPO 法人三鷹ネットワーク大学)、尾久土 正己(和歌山大学)、坂元 誠(西はりま天文台)、佐藤 理絵(NPO 法人小さな天文学者の会)、甲田昌樹(十和田市民文化センター)、手塚 秀幸(飯豊町教育委員会)、土谷重幸(財団法人 星のふるさと)、細谷 秀樹(加古川科学宇宙同好会)

星空案内人(星のソムリエTM)資格認定制度はこれまでに星空案内人/準案内人の資格者を300人以上輩出し、全国9箇所で開催されている制度である。資格取得者のかなりの部分が後に地域で星空案内や出前などの活動を行っている点が特筆される。天文学やひろく科学を日常生活に組み入れる環境作り(科学文化形成)に実効のある制度であることがはっきりしてきている。講演では、制度の概略を整理したあと、現在の達成点、問題点を取り上げる。さらに、資格の商業的な利用例も出てきており(普及の障害になる要素もある)、日常の生活の豊かさを提供するという本来の目的に沿った運用が必須である。いろいろな実施場所での運営上のノウハウの確立も急がれている。このような様々な観点から、現在は運営制度確立の正念場を向かえていると考えられる。

この制度運営に必要なカリキュラムと運営方法の要点を紹介する。今後同制度を導入することを考えている公共天文台等の生涯教育施設の参考となる成果も提出する。